

第3回みえの学力向上県民運動推進会議を開催し、事務局からの報告や各主体による具体的な取組報告の後、今後の運動の展開に向けた議論がなされました。

1 日時 平成26年3月13日（木）13：00～16：00

2 場所 三重県総合教育センター 多目的ホール（津市大谷町12）

3 内容

（1）事務局からの報告事項

- ・平成25年度の取組状況について、「みえの学力向上県民運動アクションプラン」を踏まえた取組の現状、全国学力・学習状況調査結果、家庭での取組、みえの学力向上県民運動推進会議委員の派遣等について報告しました。

（2）各主体による具体的な取組報告

- ・いなべ市立石樽（いしぐれ）小学校から、実践推進校及びコミュニティ・スクールの取組をとおして、学ぶ意欲を育む取組について報告されました。
- ・紀北町教育委員会から、紀北町立紀北中学校の学校図書館の活用をとおした学びを進める取組について報告されました。
- ・健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課から、ひとり親家庭の学習支援を進める取組について報告されました。
- ・まなびのコーディネーター（桑名市）から、みえの学び場づくりをとおして、地域における学びと育ちの環境づくりを進める取組について報告されました。

（3）今後の運動の展開に向けて、推進会議で出された主な意見

- ・今回の報告には、「一人ひとりのケア」、「地域のコミュニティとのかかわり」、「楽しいしかけ」という3つの共通点があったと思う。大人がどう主体的に関わるかが大事。県民運動により、「皆さんが主役」ということを伝えていきたい。
- ・学校においては共生という考え方は大切だが、学習においては共生だけでは子どもは育っていかない。学習の成果は、個にかえってくるものである。そのためにも習熟度別は有効。
- ・学習意欲の高い子どもたちには、知的好奇心を高める取組を、課題を抱える子どもたちには、自己肯定感や夢を持つ取組をすすめるなど、実態に応じてアプローチを変える必要がある。
- ・知識は授業の後半のふりかえりなどでアウトプットすることでインプットされる。授業の最後に、今日のポイントを教員がたずねたり、発表させたりするなどのアウトプット（ふりかえり）が必要。「終了5分前からの授業のふりかえり」運動をしてはどうか。
- ・子どもの捉えが、教員と地域の方々では違う。地域の方々は色んな捉えをしてくれる。より多くの大人を巻き込んでいくことが大切。
- ・家庭環境など子どもたちの背景を理解したうえで、学校現場では習熟度別学習を取り入れながら個を大切にした授業をしている。しかし、学校だけでは不足するのは当たり前である。それを補完していくことが県民運動の核心だと思う。